



発行所
 一般財団法人
 広島県動員学徒等犠牲者の会
 事務局
 広島市南区比治山本町12-2
 広島県社会福祉会館内
 〒732-0816 電話 (082) 252-0316
 印刷所 Taisei
 デジタルブック
 “慟哭の証言”
<http://www.douingakuto.com/>

第66回原爆死没者追悼式の挙行

理事長 本地 正治

本年8月6日に、66回目となる原爆死没者追悼式を慰霊塔前広場で開催いたしました。追悼式は、コロナ感染防止対策上、ご来賓席及び一般遺族席は設けず、「追悼のことば」を賜るご来賓と役員のみでの参列により、また、「8時15分の参列者全員による黙祷」で開始するという新しい進行で肅々と行いました。

また、追悼式開催中は、その時慰霊塔へお参りいただいた一般の参列者の方々も「黙祷」をしていただき、「追悼のことば」も肅然とご清聴いただきました。

皆みなさまのお蔭をもちまして、追悼式を無事終えることができましたこと、心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



慰霊塔前



黙祷



参拝風景



参拝風景



ご来賓献花



名簿閲覧・受付



献花受付

目次

- 第66回追悼式の挙行 …… 1
- 理事長式辞 …… 2
- 追悼のことば …… 2～4
- 式次第及びご来賓紹介 …… 4
- 被爆教師森下弘さんの
“生きて”を読んで …… 4～5
- 研修会報告(その2) …… 5～7
- 動員学徒をしのぶ座談会(その四) …… 8
- ご寄付のお礼・あとがき …… 8

式辞

理事長 本地 正治

本日ここに広島県動員学徒等犠牲者の会といたしましたの、第六十六回原爆死没者追悼式を挙行するにあたり、動員学徒、女子挺身隊員として、出動中に被爆し、犠牲となられた七千有余名の英霊に対し、先ずもつて深甚なる哀悼の誠をささげるものであります。

今回の追悼式の開催に当たりましては、新型コロナウイルス感染症防止対策上、止むを得ず参列者数を制限させていただきましたが、本日このように、ご来賓ご出席のもとに開催できましたことを、幸甚に存じているところでございます。

第二次世界大戦終戦直前に、労働力不足を補うため、日々動員されていた学徒は、全国で三百四十万人にも達し、当時最大の危機にあつた軍需産業の支柱的な役割を果たしてまいりました。

空襲その他による学徒の死亡者数は、全国で約一万一千人に達し、そのうち広島原爆による死亡者数は約七千二百人と一番多く、また中・高等学校の一・二年生が中心であつた建物疎開作業中の動員学徒の死者数は、約六千人にものぼりました。

青春の輝きと学業の自分をあたら犠牲にし、戦禍に倒れ祖国に殉じた学徒のことを、私たちは、努々忘却し

てはなりません。

当会は、原爆死した動員学徒等の英霊を慰霊するために、昭和四二年に御遺族を始め多くの有志の皆さまからのご寄付により、当地に慰霊塔を建立いたしました。

現在は、二十数名の有志会員により、月一回の西向寺における読経と、月二回程度の慰霊塔周辺の清掃を行い、英霊の慰霊に努めているところでございます。

最近の新型コロナウイルスの感染状況は、第七波を迎え予断を許さない状況にあります。そして本年二月からの、ロシアのウクライナ侵攻も、いまだに平和的な解決に至っていない状況です。

新型コロナウイルスの蔓延とロシアによる核兵器使用の威嚇は、人類への脅威であり、これら乗り越えるためには、どちらも一日も早い収束に向けて、世界各国すべての連帯努力が必要不可欠ではないかと思慮いたしております。

このような状況下ですので、当会といたしましたは、被爆死した動員学徒の無念さ、平和への切なる思いを継承し、「核兵器のない平和な世界の実現」に向けて、戦争の悲惨さと平和の尊さを未永く語り継いでまいりたいと、これまで以上に意を強くいたしておるところでございます。

本日の式典にご参列いただきまして皆様、厚く御礼申し上げますとともに、動員学徒の御霊の永久の安

らぎと皆々様の平安を心からお祈り申し上げ、式辞といたします。



理事長 本地正治

追悼のことば

広島県知事

湯崎 英彦

本日ここに「第66回原爆死没者追悼式」が執り行われるに当たり県民を代表し、謹んで追悼のことばを申し上げます。

顧みますと、あの忘れることのできない日から、77年という歳月が過ぎ去りました。

人類史上初めて使用された原子爆弾は、この慰霊塔の上空で炸裂し一瞬にして広島を焦土と化し、無限の

可能性を秘めた、動員学徒や女子挺身隊の方々を始めとする多くの尊い生命が失われました。

祖国の発展と安泰を願ひ建物疎開などに従事中に亡くなられた余りにも若い犠牲者の方々の無念の思いを推しはかる時哀惜の念、胸に迫るのを禁じ得ません。

また、最愛の我が子や肉親を失なわれた御遺族の皆様には、長い間、言葉に尽くせない深い悲しみと多くの困難を乗り越えてこられたところであり、その間の御心労と御努力の程は察するに余りあります。

私たちは先の大戦の体験から「あやまちは二度と繰り返しません」と固く決意しました。

しかしながら、戦後生まれの世代が大多数を占める中、戦争体験、被爆体験の風化が懸念され、一方では、今なお、恒久平和と核兵器廃絶への道のりには険しいものがあります。

こうした今こそ、原爆の惨禍を乗り越えた「ひろしま」には、「核兵器のない世界」に向けた強い思いを国際社会と共有し、平和と安定の実現に向けて、努力して行く責任があると考えます。

そのためにも、戦争の悲惨さや、そこに幾多の尊い犠牲があつたことを次の世代に語り継ぐとともに、国の内外に平和の大切さを強く訴えつづけていかなければなりません。

そして、この二十一世紀を、誰もが心豊かに暮らせる、より良い社会

とするため、全力を尽くしていくことを、お誓い申し上げます。
終わりに、犠牲者の方々の御冥福と御遺族の皆様の御多幸を、心からお祈り申し上げ、追悼のことばといたします。

広島市長

松井 一實

本日、一般財団法人広島県動員学徒等犠牲者の会の主催により、第66回原爆死没者追悼式が執り行われるに当たり、犠牲者の御霊に対し、謹んで追悼の言葉を捧げます。

77年前、動員学徒、女子挺身隊員として、ひたすら我が国の安泰を願い、軍需工場での作業や建物疎開作業に従事されていた多くの方々が、一発の原子爆弾によって若くしてその尊い生命を奪い去られたことは、誠に哀惜の念に堪えません。また、最愛の肉親を亡くされた御遺族の皆様におかれましては、今なお、その悲しみはいかばかりかと御拝察申し上げます。

今日の我が国の平和と繁栄は、こうした多くの尊い犠牲の下にありません。私たちはこのことを決して忘れてはならず、同じ思いをする子供たちやその家族を生み出さないためにも、二度と悲惨な戦争を繰り返してはなりません。

しかしながら、ロシアによるウク

ライナ侵攻により、軍事力による暴挙は軍事力によって抑え込むしかないとの考えが勢いを増しています。こうした考えは、これまで長年被爆地が訴え続けてきた平和への願いに逆行するものであり、世界の166の国と地域、8200の平和首長会議の加盟都市と共に、核兵器を廃絶する以外には根本的に解決できないことをこれまで以上に強く訴えてまいります。

来年には本市においてG7サミットが開催されます。原子爆弾により破壊され、戦後75年は草木も生えないと言われた廃墟の中から目覚ましい復興を成し遂げた広島の地に、核保有国を含む主要国の首脳が集い、対話する意義は極めて大きいことです。平和記念資料館の視察や被爆者との対話などを通じて、為政者に被爆の実相や市民の思いに触れていただき、核兵器がもたらす結果をしっかりと受け止め、平和の礎としてもらいたいと考えています。

戦没者の方々の犠牲を尊い教訓として深く心に刻み、世界恒久平和にまい進する決意を新たにするとともに、戦争の悲惨さと平和の尊さを末長く後世に語り継いでまいります。

終わりに、御霊のとこしえに安らかなる御冥福をお祈り申し上げますとともに、御遺族の皆様の御健勝を祈念いたしまして、追悼の言葉とさせていただきます。

山陽高等学校

佐々木 慧 士

本日は第66回広島県動員学徒等犠牲者の会原爆死没者追悼式に参列させていただきます、誠にありがとうございます。生徒を代表して謹んで追悼の言葉を申し上げます。

1945年8月6日は、私たちが決して忘れてはいけない悲劇の日です。77年前の今日は、雲ひとつない真夏の太陽が激しく照りつける日でした。あの日、たった1発の原子爆弾により広島市の町は焦土と化し、一瞬にして多くの罪なき尊い命が奪われました。私の通う山陽高校の先輩方もその被害に遭いました。当時、建物疎開作業に従事していた山陽中学校の先輩方486名と教職員19名が亡くなっております。その中には爆心地から近い場所では爆風により崩壊し、多くの先輩方が死亡、重傷を負いました。亡くなられた先輩方は、私と同じように将来に心を躍らせながら、学業と部活動に取り組み、友人との交遊に楽しんでいたはずで、そんな当たり前と思われる日々が奪われ、夢半ばで絶たれてしまった先輩方を思うと胸が痛むと同時に、その様な立場にさせた戦争に激しい怒りを感じます。

さて、現在の学生はそんな悔しい思いをした先輩方についてどれだけ知り、どれだけ思いをさせているでしょうか。

8月6日の恐ろしさを覚えている方の平均年齢は80歳を越えるようになりました。それに伴い、原子爆弾の恐ろしさを直接聞く機会が無くなりつつあります。そんな中でも、我々学生一同はこの8月6日についてもっと知るべきだと思います。そして、しっかりとした思いで、この日を毎年追悼し、後世に平和の大切さを伝えていく役を担うべきです。先人たちが命を懸けて繋いできた平和のバトンを後世にしっかりと紡いでいく事、2度とあの悲劇を起こさないよう世界に発信する事、これが私たちの生涯の役割であると考えています。

世界情勢は今、再び核の脅威にさらされる可能性が日々拡大していま



山陽高等学校生徒代表 佐々木慧士さん



す。ロシアによるウクライナ侵攻です。報道を聞くと核兵器がいつこの世界に落とされるかもわからなくなってきました。それを止めることができるのは核兵器の恐ろしさを理解し、平和に対する強い意志を持った人々の声だと思えます。当時の学生が夢にまで見た「平和な生活」、この生活は当たり前のものではありません。私たち学生ができることは、8月6日に起きたことを知り、追悼し、平和に対する考えを後世に残し、世界に広げていくことだと思います。最後にになりましたが、犠牲になられた方のご冥福と、ご遺族のご多幸を心からお祈りし追悼の言葉といたします。

第66回原爆死没者追悼式

式次第(敬称略)

- 一、黙祷
- 一、式辞
- 一、ご来賓追悼のことは

広島県知事 湯崎英彦

(代読 健康福祉局)

社会援護課長 西尾雅敏

広島市長 松井一實

(代読 健康福祉局保健部)

医務監 宮城昌治

- 一、学校代表生徒の追悼のことは

山陽高等学校

生徒代表 佐々木慧士

- 一、ご来賓等献花者

(衆議院議員)

岸田文雄 平口 洋 齊藤鉄夫

新谷正義 寺田 稔 佐藤公治

小島敏文 哇元将吾 空本誠喜

石橋林太郎 日下正喜 平林晃

玉木雄一郎

(参議院議員)

森本真治 三上絵里 谷合正明

山本博司

(広島県議会議員)

高田 稔 中原好治 山下智之

窪田泰久 畑石頭司 瀧本 実

鷹廣 純 竹原 哲

(広島市議会議員)

平野太祐 川本和弘 永田雅紀

八條範彦 伊藤昭善 定野和広

川口茂博 三宅朗充

(山陽高等学校)

教諭(生徒会顧問) 丸子直倫

木村文人 岩見大地

被爆教師 森下弘さんの “生きて”を読んで

副理事長 谷 口 了 子

森下さんは、広島一中三年に在籍中の昭和20年8月6日に、鶴見橋西詰で、全員で整列して、建物疎開作業上の注意を受けていた時に被爆されました。

その後、「戦争を阻止するにはどうすればいいか、自ら考える人間を育てたい。」の思いを胸に高校教師を始め、いろいろな活動を通して、平和教育に情熱を注ぎ続けてこられました。

森下さんは、被爆直後は多くの生徒が歩んだように悲惨な修羅場を潜り抜け自宅を目指しました。途中で、白島に渡る橋が熱くて渡れませんでしたので、中州に降りたところ、自身の顔が腫上がり膨れ上がり片目がつぶれて見えなかったにもかかわらず、兵隊さんから「連れて逃げてやってくれ」と、背中全面をやけどした崇徳中1年生を託されました。

夕方、枕木がくすぶる鉄橋を恐る恐る渡り、やっとの思いでたどり着いた西白島町の家は焼け落ちていたので、二人で古市橋駅あたりで列車に乗り、森下さんは川内の知人宅を目指すため、緑井で一人下車したそうです。

その後、力尽きて畑で倒れていた

のを、誰かが見つけてくれ、知人宅に運び込まれましたが、そこをお父さんが捜し当ててくれて出会う事ができました。今でも「あの男の子が助かっていたらいいなあ。」と心から願っておられるようです。

原爆投下当日は地獄のようなありさまの中で、伝えてくれる人がいて、我が子の元に行くことができた親が多くなりました。緑井で別れた崇徳中1年生も、私の兄のように無事家に帰り着いていますようにと祈らずにはおられない。と同時に、現在・未来の子に、原爆投下という悲惨な経験をさせてはいけなく強く感じました。

森下さんは、「昭和32年設立の広島県動員学徒犠牲者の会に加わった。障害への国家補償を求め、当時の厚生省へ陳情に行くわけ。蒸気機関車でかなり時間をかけてね。でも何度も断られた。」と述べておられます。

あのとき一生涯に尽力してもらった人のお陰で、親たちの念願だった国家補償が実現したと思うと、感謝の気持ちでいっぱいです。

当会は昭和53年に財団法人広島県動員学徒等犠牲者の会となり、平成24年に一般財団法人広島県動員学徒等犠牲者の会となりました。森下さんにはその後も会を気にかけてもらい、2年前もご寄付をいただきました。ありがたい事です。亡くなられた多くの友を大切に思ってお気持ちは続いていると推察されます。

原爆体験の後、いろんな出会いで数々の平和活動を継続され、日本だけでなく世界中を飛び回り行動するエネルギーは想像を絶する大きさです。娘さんの誕生により「あんなことが二度とあっちゃいけん。幼子を犠牲にしてはならない。」と痛切に思ったのが活動の原点のようです。昭和39年には、米国出身のバーバラ・レイノルズさんが提唱した世界平和巡礼に、森下さんは二か月半、高校を休んで参加されました。「平和のためにできる事は何でもしたい。」という使命感の固まりの人です。

広島を愛し、被爆者の苦しみに心を寄せ続けてくれた米国人がいたことを知り、感銘を受けました。昭和49年、平和教育の副本「明日に生きる」を出版し、「戦争の悲惨さを知ろう。阻止するために何ができるか。」と人々に訴えています。多くの子を導き、平和を願う心が育っていると信じたい。

谷口の父（養父）は、私が出産したばかりの子に、「戦争で死ぬなよ。」と声をかけました。被爆者、とりわけ我が子を亡くした親の願いを忘れず伝えることが、今を生きる者の責務と考えます。

森下さんは、80歳を過ぎても体験証言を続け、新型コロナウイルス禍でも頼まれればオンライン講演を引き受け、資料の整理に力を入れておられます。このことは、森下さんの言をかりると、「間もなく私たちが被



爆者がいない時代がやって来る。その時、資料を基に原爆のことを知ってほしい。分類を終えたら引き取ってもらえる広島県の公的機関を探します。このことは私がなすべき仕事だと思っています。」という崇高な信念に基づいていると思われまます。

動員学徒の資料と本会の名を後世に確実に残すように、できるだけ会に関わりたいと私が思った瞬間でした。会員の家にある大切な品を展示活用できるスペースを確保できたらと願っています。

犠牲者の会の活動は、親から兄弟姉妹に引き継がれました。高齢化のためこれからはその子や生き抜いた学徒の子に期待したい。ご参加を心よりお待ちしております。

なお、平成19年当会発行の冊子「慟哭の証言」に、「被爆教師として生きる」と題して、森下さんの手記が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

(編者注)
森下弘さんの「生きて 被爆教師」記事は、中国新聞に2022年4月から5月にかけて掲載されました。

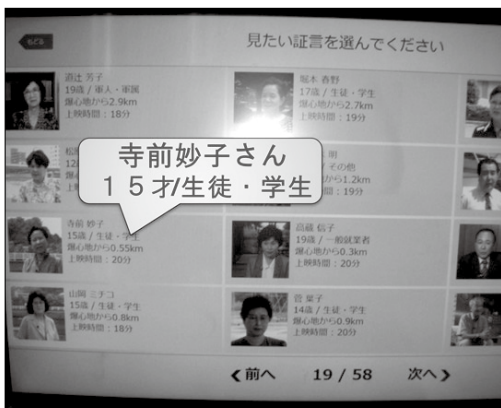
広島平和記念資料館のご案内(研修会報告)

(その2) (前号からの続きです)

辻 靖 司

4 東館3階 「核兵器の危険性」
本館3階のご案内を終えて、東館3階へ戻ってきました。

○「被爆体験証言ビデオコーナー」
正面で放映のビデオは、9人分の証言を1名3分で放映している。その奥の右側には4〜5名で聴講できるブースが8つある。約1000人分の被爆者証言を収録している。1名約20分で放映している。当会の役員を永年務められている寺前妙子さんの被爆体験証言も収録されている。



(証言者一覧表)

次に、同階の「核兵器の危険性」のコーナーの説明をしました。核兵

器廃絶へ向けての大切なコーナーです。

○「原爆の開発から投下までの経緯」
「なぜ、アメリカは原爆を開発したか?」「なぜ、日本に投下することを決めたか?」「なぜ、広島に投下したか?」について、1945年7月26日のポツダム宣言も含めて説明をしました。

○「リトルボーイの模式図」
投下された原子爆弾「リトルボーイ」は、長さ3m、直径0.7m、重さ4トン、ウラン235が50kg。爆薬の起爆装置の説明。また、「原爆による広島市と長崎市の被害の比較」(投下目標、爆発威力、大きさの仕様、当時の人口、死者数)の説明。

○「熱線、爆風、放射線の被害の説明」
「原爆被災状況広島市街図」で、広島市街の原爆被災状況を説明しました。広島市街の広い範囲へ、たった一発で大きな原爆被害をもたらした模様をお話しました。

・「T字形の相生橋」は、広島市の中央に位置し、原爆の投下目標になりました。

・実際には、南東に約300m離れた島病院の上空約600mで原爆は炸裂しました。

・炸裂して一秒後には、直径約400mのとても大きな火球になりました。この火球の表面の温度は、約7700℃になりました。

そのようなことから、原爆は爆発

の瞬間、強烈な熱線と放射線が四方へ放射されるとともに、周囲の空気が膨張して超高圧の爆風となり、これら3つが複雑に作用して甚大な被害をもたらしました。原爆による被害の悪い特徴は、大量破壊、大量殺りくが瞬時にかつ無差別に引き起こされたこと、放射線による障害が長期間にわたり人々を苦しめたことです。

これらの被害を順番に説明しました。

(1) 「強力な熱線の被害」

爆発後、数秒間降り注いだ熱線により爆心地の地表の温度は3000〜4000℃になりました。その結果、原爆が投下された爆心地から約1.2km以内において直接熱線を浴びた人々は、皮膚が焼きつくされ、体内の組織や臓器に障害を受けて、ほとんどが即死や数日のうちに亡くなりました。爆心地から600m以内にあつた屋根瓦は、強烈な熱線を受けて表面が溶解しています。後の実験では1800度くらいの熱が4秒間あたると、このように表面が溶けてブツブツの泡状となりました。また人体への火傷は、熱線に直面していた部分に生じていて、爆心地から3.5km離れていても、衣類に覆われていなかった部分は火傷を負いました。

(2) 「すさまじい爆風の被害」

爆発の瞬間、爆発点は数十万気圧という超高圧となり、まわりの空気が急激に膨らんで衝撃波が広がり、

この後を追って強烈な爆風が吹き抜けました。高圧の空気の壁が発生したのです。その圧力は、爆心地から100mの所では、1平方m当たり19トン、500mの所では、1平方m当たり約11トンに達したと考えられています。吹き飛ばされて失神した人、負傷した人、倒壊した建物の下敷きになって圧死した人が相次ぎました。爆心地から半径2kmまでの地域では、木造家屋はほとんどが倒壊しました。鉄筋コンクリート造の建物は崩壊を免れたものの、窓はすべて吹き飛ばされ、内部にいた人たちの体には無数のガラス片が突き刺さりました。

またこの爆風は、爆心地から100m離れた地点で277.7m/秒、3km離れた地点でも29.3m/秒で吹き抜けぬけました。昨年の35〜40m/秒の大型台風で沖縄や関東地方でも大きな被害が出ましたが、これと比較すると、どんなにすさまじい爆風が広島市内を襲ったのか想像が出来るのではないのでしょうか。

(3) 「危険な放射線の被害」

放射線とは何でしょうか？放射線を懐中電灯でイメージをしてお話をすると「放射性物質は懐中電灯の乾電池」「放射線はエネルギーを持つた光」「放射能とは懐中電灯が持つてくる光を出す能力」に例える事が出来ます。このことをイメージしながら私のお話を聞いてください、とお話をしました。

そして、放射線には初期放射線と残留放射線の二つがあります。初期放射線は爆発後1分以内に放射された放射線で、爆心地から1km以内にいた人は致命的な影響を受け、多くの人が数日のうちに亡くなりました。また、爆発後長時間にわたり残留放射線が地上に残りました。残留放射線とは、核分裂で生まれた放射性物質や分裂しなかったウランから出る放射線と初期放射線を受けたこと(土やがれきを構成する原子の)原子核が反応を起こして生まれた放射性物質が出す放射線の事です。ですから爆発直後はしばらくの間、地上の建物や地面から放射線が放出されていたこととなります。

したがって、直接原爆の被害に遭わなくても、家族や同僚を探したり、救護活動のため市内に入った人は、直接被爆した人と同じように残留放射線を浴びて、発病したり死亡したりしました。また、爆発後、放射性物質を含んだチリやススなどが、地表から巻き上げられ黒煙となり、空気中の水滴と交じり、黒い雨となって降りましたが、この雨には放射性物質が含まれており、池や川では魚がたくさん死んで浮き上がりました。この地域で井戸水を飲んだ人々の多くは、その後3か月にもわたって下痢をしたといえます。

放射線による被害は、被爆直後だけでなく、白血病やがんのように、何年もたつて症状が現れる場合

があります。放射線による影響については今でも十分には解明されておらず、今後も研究を続けていく必要があります。

原爆によつて人々の体にはどのような影響が出たのでしょうか。大きく分けると、急性障害と後障害の二つに分けることができます。

① 急性障害について

被爆直後から短期間に現れた症状を急性障害といいます。放射線障害のみならず熱線による火傷や爆風による外傷、その上、医薬品の不足や食糧難による栄養状態の悪化なども加わり、吐き気、下痢、脱毛、出血斑、発熱、吐血など様々な症状が現れました。放射線は、細胞が活発に分裂している部分に大きな影響を与えます。

② 後障害について

さらに、被爆から年月を経て、放射線が原因と考えられるがん等の後障害が増えてきました。火傷が治った後の皮膚や肉が盛り上がるケロイドは、翌年から翌々年を頂点に現れました。ケロイドは痛みやかゆみを伴い、まわりからの視線や心無い言葉により精神的な苦痛を受けることがあります。爆心地から2km前後までの地域で、熱線の直射による火傷を負った人々の50〜60%にこの症状が現れました。また、被爆から年月を経て、白血病やがんによつて亡くなる人が増えていきました。白血病は、被爆して2年から3年後に始

まり、7年から8年後に頂点に達しました。その後、減少していきましたが、現在でもその危険性は続いています。一方、がんが発生するまでの潜伏期間は長く、被爆後5年から10年ごろに増加が始まったのではないかと考えられています。

また、被爆者の子どもへの影響は早くから心配され、出生時の障害や染色体の異常、がんを発生する危険性など、さまざまな調査・研究が行われてきました。現在のところ有害な影響は見つかっていませんが、継続した調査が行われています。特にがんについては潜伏期が長く、これから発生が増加する年齢に達するため、今後調査が必要です。

これまでは、1945年8月6日に広島に投下された原爆の被害を中心に、お話ししてきました。

では、これからは私たちが生活している現在に話を戻してみたいと思います。広島、長崎への原爆投下以降、世界は「核時代」へと突入し、複数の国々が競って核開発を行いました。

○「核開発と拡散」

広島、長崎への原爆投下以降、世界は「核時代」へと突入し、複数の国々が競って核開発を行いました。今、アメリカやロシアなど9か国が保有し、世界には約1万3千発の核兵器があると考えられています。そのうち3825発の核弾頭が実戦配備されています。冷戦期のピーク時

には世界全体で約7万発もありました。それから比べると現在では随分減っていると思いますが、核兵器を積んで攻撃するための弾道ミサイルの開発や、核兵器自体の最新化が各国で進められており、核兵器廃絶への道のりは険しいものになっています。

○「核実験が及ぼす影響」

1954年3月1日に、米国がマーシャル諸島ビキニ環礁で行った水爆実験で被爆した少年の写真。当時7歳で176km離れた島で被爆した。皮膚にやけどを負い6年後にがんとと思われる病気で死亡。この実験では、被害を受けると予測された危険地域以外にも「死の灰」が降り注ぎ、これを浴びた住民はヤケド、頭痛、吐き気、下痢、頭髪が抜ける症状を発症。その後は、甲状腺障害、出産異常などの症状が現れた。マーシャル諸島周辺のみでなく、太平洋全体の魚が汚染された。

東京都江東区夢の島にある「第五福竜丸展示館」の見学の機会があれはおすすめです。

○「核兵器禁止条約―核兵器廃絶に向けた世界の動き」

2010年ごろから、核兵器の非人道性に対する認識が国際社会に急速に広がりました。そして大多数の非核保有国が核兵器は絶対悪であると訴え、2017年7月国連加盟国の6割を超える122か国の賛成により採択されたのが核兵器禁止条約

です。また、2021年1月、世界50か国が批准のうえ、ついに発効しました。この条約は、核兵器の開発、実験、製造、取得、保有、貯蔵、移譲、使用、使用の威嚇などの活動をいかなる場合にも禁止するもので、法的に核兵器を禁止した初めての国際法です。

また、被爆者の苦しみと被害に触れ、核兵器廃絶に向けて被爆者などが行ってきた努力にも言及しています。この条約は、被爆者の苦しみや核兵器の非人道性に言及し、全世界の国々の意識の大きな転換を促す重要な条約です。しかし、核兵器保有国と核の傘の下にある国々は、この条約に加わっていません。そのため、全ての国が加わるような取組が今後の課題となっています。

○「核兵器不拡散条約」(NPT)

1968年6月、国連総会で承認され、1970年3月発効。柱は、核不拡散、核軍縮、原子力の平和的利用。米、露、英、仏、中の5か国を核兵器国と定め、それ以外の国の核兵器の開発と保有を禁止するとともに、核兵器国には、核軍縮交渉の義務を課した条約。1995年5月、無期限延長された。2020年1月現在、締約国は191か国・地域。非締約国はインド、パキスタン、イスラエル、南スーダン。

○「包括的核実験禁止条約」(CTBT)

1996年9月、国連総会は圧倒的多数をもって同条約を採択。内容

は、宇宙空間、大気圏内、水中、地下を含むあらゆる空間における核兵器の実験を禁止するものです。CTBTが発効するためには、特定の44か国全ての批准が必要とされていますが、現在のところ、米・印・パキスタン等一部の発効要件国の批准の見通しが立っておらず、条約は未発効。

○「新戦略兵器削減条約」

2011年2月5日にアメリカ合衆国とロシア連邦の間で発効した核兵器の軍縮条約です。条約発効後、7年間で核弾頭の数を1550以下、配備の核兵器の運搬を700以下、配備及び非配備運搬手段を800以下、といった削減目標が示されています。さらに現地査察を含む検証制度を備えています。

(次号へ続く)

お知らせ

ともしび編集委員

広島平和記念資料館では、2022年3月9日から、来館者の目線で館内を見学できる「デジタルガイドマップ」が導入されています。ご覧になりたい方は、ホームページにアクセスして、「2022年3月9日のお知らせ」をクリックしてください。広島平和記念資料館の写真などがご覧になれます。

動員学徒をしのぶ

座談会(その四)

(昭和43年発行「動員学徒誌」から転載)

司会者(大東和徳雄)

是方信義さん、林まつ子さんには、お子さんが本県初の叙勲をお受けになつた方で定めし感慨深いものがあることと存じます。如何ですか。

是方信義

私の子供、清子は神原国民学校から呉工廠に動員されていました。死亡当時は本当にやるせない思いでありましたが、靖国の神と祀られ、このたびさらに叙勲のご沙汰を受け感激しています。これで犬死ではなかつたとせめての慰めを得たことです。

林まつ子

長女美奈子は広島女学院五年生で広島軍工廠から第五師団司令部に勤務替えとなり原爆で戦死したのですが、遺体は見つかりませんでした。美奈子は日頃私が戦死したら靖国神社に合祀されるのだと喜んで勤務していましたので戦死したことを満足に思っているでしょう。しかし、私としては掌中の玉を失った気持ちで胸がいびいです。あの勲記勲章があの子の形見かと思えば感慨無量なものがあります。

司会者

慰霊塔が完成して以来、毎日のよ

うに参拝の方々が香華を手向けられ、ご遺族の中にはレリーフの彫刻像を、いかにもわが子を愛撫するようにに涙ながらに、なで廻されている方があります。

また、ご遺族有志の方が塔の周囲を清掃されているのも感激の一つであります。

古河さんそれらのことについて何か一つ。

古河芳人

われわれ遺族の多年の念願でありました、動員学徒の慰霊塔が完成し遺族は天にものぼる心地がします。学徒のみ霊も草葉の陰で喜んでくれている事と思います。あの慰霊塔を清潔な神聖の場とするため有志と相計り附近の清掃に努力しております。他府県からのご参拝者の中には動員学徒がこれ程の犠牲を受けたことを知らない人が多いのであります。中には当時動員学徒であった年配の方が子供さんの手を引きながら昔のことを説明されておられるのを拝見しましたが、このように学徒犠牲のことが後世に語りつがれることは、ほんとに嬉しいことです。心残りが一つのぞかれた気持ちです。

司会者

野村さんご夫妻は本会が計画した靖国神社団体参拝に参加され、靖国の社頭において親子の御対面をなさいましたが、定めし感慨深いことと思えます。

野村寿人

十一月九日学徒の会のご主催により靖国神社団体参拝に参加させていただきました。秋晴れの好天気にも恵まれますがすがしい気分です。拝殿にのぼり神職さんの祝詞奏上の後、玉串奉奠があつて、しばし溟黙裡にわが子との無言の対面をいたしました。

神殿奥深くから、なんだか呼び掛けられるような気がし、当時の姿が眼前に彷彿として浮かび上がって、涙がくだるばかり、いつまでもその場を立去ることができない気持ちでした。

このように一年に一度は参拝の機を得たいのですが、何分遠方とのことなのでその意を得られないのが残念でなりません。

拜殿の楣間にかかげられている明治天皇の御製を幾度も幾度も拝誦しました。同行の皆さんにうながされて後髪引かれる思いで辞去いたしました。自分は神の親であるという力強い感じで歩む足どりもなんだか、地についた感じでした。(次号へ続く)

ご寄付お礼

令和4年6月から令和4年10月までに、次の皆様から貴重なご寄付をいただきました。ご厚志、誠にありがとうございます。

- 志水清子様
- 向井宏子様
- 奥野静子様
- 白鳥恵子様
- 米光裕子様
- 桑原キヨコ様
- 白井忠夫様
- 石田英雄様
- 立原秀晃様
- 能美直哉様
- 西村晴夫様
- 中村浩子様
- 田宮潔様

ご寄付いただきました際には、左記の口座へお振り込みください。

ゆうちょ銀行

振替口座 0130001618858

一般財団法人 広島県動員学徒等犠牲者の会

あとがき

「えー!」新井さんがカーブの次期新監督?」一報を耳にしたときは期待より心配が先に立ちました。就任会見で新監督が「ファンがわくわくするチームにしたい。」などと、笑顔満面で抱負を述べている様子を、テレビで拝見しているうちに、つられてこちらまでホッコリ笑顔になりました。「心配」はどこかに吹っ飛んでいました。熱血漢で誠実で、とても明るく、そして「とにかくデカイ」新監督に大いに期待しましょう。